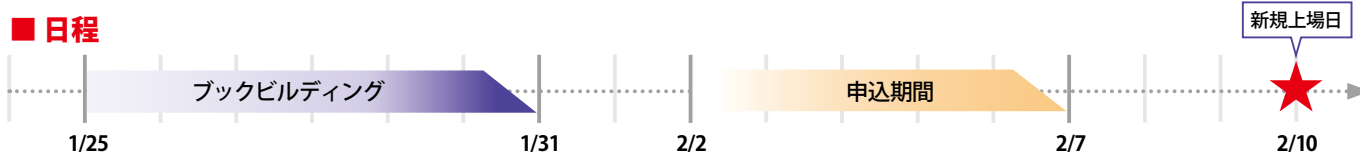


## IPO銘柄 安江工務店 (1439・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
1439	100株	公募: 28.00万株 売出: 21.02万株 (OA7.35万株)	1,130円~1,250円 (6倍)	東海東京証券



## リフォームを軸に住宅サービスをワンストップで展開

### ■ 事業内容

愛知県で、住宅リフォーム事業を中心に、新築住宅事業、不動産流通事業（不動産仲介、買取再販）と、住宅に関するサービスをワンストップで手掛ける。リフォームは網戸の張り替えからリノベーション、増改築まで幅広く展開。その特徴には、無添加厚塗りしっくい、コーラルストーンなど体に優しい天然素材を使うほか、資格を有するデザイナーによりデザイン性の高い住空間を提案していることがある。名古屋を中心に現在は10店を展開するなど、地域密着を重視している。16年12月期3四半期累計（1～9月）の売上高構成比は住宅リフォーム事業が79.7%、新築住宅事業が16.3%、不動産流通事業が4.1%となっている。

### ■ 特徴

リフォーム関連の売上高構成比が約8割を占め、リフォームを通じた信頼関係の構築が継続的な案件獲得につながっている。リフォーム受注の半数程度が過去に取引のあった顧客か、その紹介によるという。リフォーム後、何年も経ってから、住宅の建て替えや、不動産売却を請け負うこともある。

## アナリストコメント

### ■ 定量分析

16年12月期の非連結経常利益は前期比46.6%増の3億円を見込む。利益は大きく伸びるものの、売上高は減少（同6.2%減）を見込んでいる。消費増税引き伸ばしがプラスな一方、資材価格の高騰や労務費の上昇で厳しい経営環境となってきているようだ。

### ■ 定性分析

不動産関連はIPOマーケットで人気のないセクター。リフォームが主力で戸建てやマンション販売よりは人気がありそうだが、ベンチャーイメージの乏しい漢字社名も初値動向にはネガティブ。ただ、17年の第2号案件ということもあって注目度自体は高そうだ。

### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場から吸収金額は約7億円。発行済株式は創業者一族で占められており、当然ながらベンチャーキャピタル保有株はない。上場当初に公開株式以外の株券が市場に流出する可能性は非常に低く、需給面は良好となっている。  
(小泉健太)

### ■ 類似企業

安江工務店(1439・JASDAQ)	予想PER6.0倍 (仮条件上限)
ルーデン・ホールディングス (1400・JASDAQ)	予想PER17.7倍
エムビーエス (1401・マザーズ)	予想PER17.0倍

### ■ 引受証券

東海東京証券、SBI証券、みずほ証券、SMBC日興証券、藍澤証券、安藤証券、エース証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年12月期(実績)	2,419	—	-278	—	-191	—	-216.2	—
15年12月期(実績)	4,134	—	205	—	120	—	134.8	19.15
16年12月期(会社予想)	3,879	▲ 6.2	300	46.6	196	63.9	209.3	31.00

※ 14年12月期は9カ月の変則決算。16年11月に株式分割(1株→40株)を実施。14年12月期および15年12月期のEPS、配当は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年12月期	22,170	1,849	552	30	622.8	29.9	—
15年12月期	23,570	1,846	707	38	752.9	38.3	19.1

※ 14年12月期、および15年12月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位 (上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 安江 博幸	493,040	49.37
2 安江 行彦	160,800	16.10
3 安江 久樹	106,400	10.65
4 安江 将寛	56,000	5.60
5 安江 かおり	46,400	4.64
6 安江工務店従業員持株会	35,600	3.56
7 山本 賢治	14,640	1.46
8 安江 紀江	12,000	1.20
9 印田 昭彦	10,160	1.01
10 奥田 勇	6,000	0.60

## 経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	安江 博幸
専務取締役	山本 賢治
取締役 事業サポート部長	印田 昭彦
取締役(監査等委員)	時田 光一郎
取締役(監査等委員)	中浜 明光
取締役(監査等委員)	滝 一廣

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。